

# エコアクション21

## 2024年度環境経営レポート

発行日 2025年 4月10日

改訂日 2025年 5月15日

レポート対象期間 2024年3月 ~ 2025年2月

有限会社 城陽産業



ケリ

[目次]

表紙	1
目次	2
1. 事業概要	3
1) 事業者名及び代表者名	3
2) 所在地	3
3) 環境管理責任者及び事務局	3
4) 連絡先	3
5) 事業活動の内容	3
6) 適用事業範囲	3
7) 事業規模	3
8) 施設等の状況	3
9) 産業廃棄物許可証の内容及び許可番号	4
10) 廃棄物の処理料金	4
11) 環境関連技術資格の名称と取得人数	4
12) EA21推進組織図	5
2. 環境経営方針・環境経営目標	6～7
3. 2024年度環境負荷の調査結果と取組状況まとめ	7
4. 2024年度実績（運用期間 2024年3月～2025年2月）	8～10
5. 主要な環境経営計画取組み結果の考察	10～12
6. 次年度以降の取組み内容	13
7. 環境関連法規への違反、訴追等の有無	14
8. 代表者による全体評価と見直し・指示	14

## 1. 事業概要

- 1) 事業者名称及び代表者名  
事業者名称：有限会社城陽産業  
代表者名：代表取締役 浦上富廣  
設立日：昭和44年 4月1日  
資本金：500万円
- 2) 所在地  
本社  
〒671-0101  
兵庫県姫路市大塩町2162
- 3) 環境管理責任者及び事務局  
環境管理責任者：代表取締役 浦上富廣  
環境事務局：湯口正文
- 4) 連絡先  
連絡担当者：(環境事務局) 湯口正文  
TEL：079-247-9652  
FAX：079-247-9653
- 5) 事業活動の内容  
産業廃棄物の収集運搬  
製鋼原料売買  
製紙原料売買  
清掃業務  
設備の据え付け・移設・撤去
- 6) 認証・登録事業範囲  
登録事業者名：有限会社城陽産業  
対象事業所：本社・工場  
対象とする活動：(事業活動の内容と同じ)

### 7) 事業規模

活動規模	単位	2009年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
処理量	t	3,718	2,504	2,512	2,217	2,123
売上高	百万円	160	181	176	198	180
従業員数	人	13	10	9	7	9

### 8) 事業年度

3月～翌年2月

### 9) 施設等の状況

#### ○収集運搬車両等

- ・8t車クレーン付ダンプ 1車
- ・4t車ヒヤブクレーン付き平ボデー 1車
- ・4t車クレーン付き平ボデー 2車
- ・3t車ヒヤブクレーン付きダンプ 1車
- ・2t車平ボデー 1車
- ・営業車 1車
- ・軽トラック 1車

#### ○その他車両

- ・フォークリフト 5台
- ・ショベルローダー 1台

#### ○計量器

- ・台秤(最大計量容量5t) 1台

9) 産業廃棄物許可証の内容及び許可番号

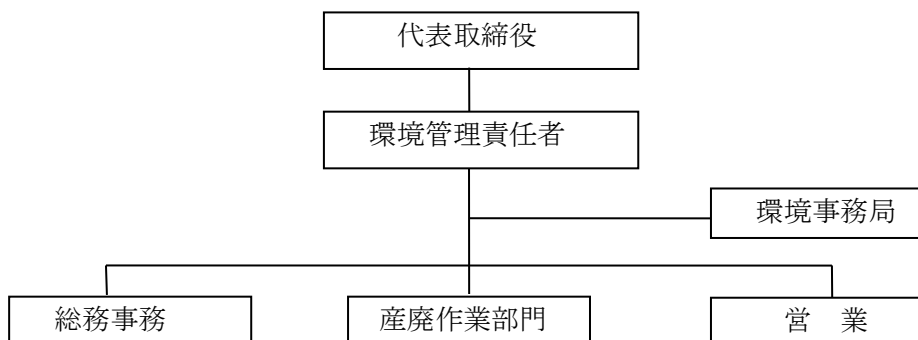
許可 県市名	事業の区分	許 可 番 号	事 業 の 範 囲	許 可 年月日	許 可 有効期限
兵庫県	産業廃棄物 収集運搬業	02802012453	汚泥（水銀含有ばいじん等を含む）、廃油、 廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を 含む）、紙くず、木くず、繊維くず、金属 くず、ガラスくず・コンクリートくず及び 陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む）、 がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）  上記については水銀使用製品産業廃棄物 を含む。	R6.07.27	R11.07.26

その他の許可内容 古物商許可（兵庫県公安委員会） 第631609000052号  
 公布日 H2. 7. 13  
 変更日 R2. 3. 9  
 金属商許可（兵庫県公安委員会） 第1600100001号  
 許可・公布日 H13. 6. 1  
 変更日 R2. 3. 9

10) 廃棄物の処理料金：別途見積書による  
 （廃棄物の種類、数量、荷姿、性状等により、処理料金が異なる為）

11) 環境関連技術資格の名称と取得人数  
 大型運転免許・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4人  
 中型運転免許・・ 2人  
 大型特殊運転免許・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3人  
 移動式クレーン運転免許・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1人  
 小型移動式クレーン運転技能講習修了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4人  
 玉掛技能講習修了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3人  
 ガス溶接技能講習修了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3人  
 フォークリフト運転技能講習修了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5人  
 ショベルローダー等運転技能運転修了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1人  
 フロン回収技術講習修了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1人

1 2) E A 2 1 推進組織図



	役割・責任・権限
代表者 (代表取締役)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な、人、設備、費用、時間、技能、技術者の準備</li> <li>・環境管理責任者を任命</li> <li>・代表者による経営における課題とチャンスの明確化</li> <li>・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>・環境経営目標設定の承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施</li> <li>・環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムを構築し、実施し、管理</li> <li>・法規制登録簿の承認</li> <li>・環境経営計画書の承認</li> <li>・環境経営の取組み結果の代表者への報告</li> <li>・環境経営レポートの確認及び地域事務局への送付</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐、E A 2 1 推進委員会の事務局</li> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成</li> <li>・環境経営活動の実績集計</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・テスト、訓練の実施のフォロー</li> <li>・従業員に対する教育訓練計画の作成とフォロー</li> <li>・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門における環境経営システムの実施</li> <li>・自部門における環境経営方針の周知</li> <li>・自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・特定された項目の手順書作成及び運用管理</li> <li>・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>・テスト、訓練を実施、記録の作成</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加。</li> </ul>

## 2. 環境経営方針

### 2024年度環境経営方針

作成 2020年4月10日 改定日 2022年7月27日

代表取締役 浦上富廣

#### 基本方針

有限会社城陽産業は、企業理念に基づき全ての業務を通じて省エネルギー、省資源、リサイクルの推進、廃棄物削減を自主的、積極的、継続的に推進し、地球環境の保護に努める。その為には自社の環境保全意識とリサイクル技術を持った熟練技術者を生かし育てて継続的改善を進め社会に貢献する。

#### スローガン

「地球環境を守る」を基本に一人ひとりが責任を持ち積極的に行動する。

#### 重点活動

- 1) エコアクション21マネジメントシステムを円滑に運用する。そのためエコアクション21事務局を設置し、関連する諸問題を協議し解決する。
- 2) 自社の課題とチャンスに常に考慮して活動項目に生かすこと。
- 3) 従業員に対して朝礼、研修等を通じて、環境経営方針、環境経営計画などについて周知徹底を図る。
- 4) 環境関連法規、及びエコアクション21の要求事項を遵守する。
- 5) 収集運搬業務、及び外部請負業務等においては、常に環境への配慮を行う。
- 6) 以下を活動の項目とし、環境負荷の低減を図るため、具体的数値目標を定め、実施評価、見直しを行い、継続的な活動に取り組む。

①省エネルギー活動を推進し二酸化炭素排出量の削減

②化学物質の適正管理

③廃棄物の削減とリサイクル化を推進、及び適正管理

④受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮

⑤地域社会活動に貢献

⑥水道水、LPGの使用量削減への維持管理活動

—この環境経営方針は、全従業員に周知徹底するとともに、社内外に公表する—

#### 2-1 2024年度環境経営目標

P7 3項の2023年度の環境への負荷、及び環境へ取組み状況まとめにより、基準年度2019年度を元にウイズコロナを考慮して2024年度の目標値を設定した。

注意 基準年度の電力CO<sub>2</sub>排出係数は0.311で計算しています 改訂2024.11.20

取組み項目		基準年度値	2024年度目標
		(2019年度)	2024年3月 ～2025年2月
二酸化炭素排出量の削減 基準年度比△2.0% (LPGは対象外)  注意 原単位は 軽油使用量 $\frac{1}{100}$ /売上高(万円) 原単位基準年度 2020年度	電力使用量の削減 (kWh)	4,225kg-CO <sub>2</sub> (13,585)	4,140kg-CO <sub>2</sub> (13,312)
	軽油使用量の削減 注 軽油は原単位で管理 (L)	原単位0.655 22,881kg-CO <sub>2</sub> (8,718.9)	原単位0.642 22,424kg-CO <sub>2</sub> (8,544.5)
	ガソリン使用量の削減 (L)	4,677kg-CO <sub>2</sub> (2,014.6)	4,584kg-CO <sub>2</sub> (1,974.3)
	ガス使用量の削減 (kg) 維持管理	64.99kg-CO <sub>2</sub> (21.65)	64.99kg-CO <sub>2</sub> (21.65)
二酸化炭素排出量の合計		31,848	31,213
水道使用量の削減 (m <sup>3</sup> ) 維持管理		維持管理活動	参考 72m <sup>3</sup>

化学物質の使用量の削減・適正管理	燃料の漏れ、塗料溶剤の蓋閉め忘れ 0件	燃料の漏れ、塗料溶剤の蓋閉め忘れ 0件
廃棄物分別によるリサイクルの向上	2019年度より全廃棄物85%以上 2022年度見直し 自社発生分60%以上 (自社産廃22年12月見直し)	選別方法見直しによる再資源化量拡大 全廃棄物85%以上 自社産廃分60%以上 自社一廃分80%以上
受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 収集運搬時の飛散、漏洩の防止	収集飛散、漏洩事故 0件	収集飛散、漏洩事故 0件
地域社会への貢献	不定期に周辺の清掃実施	事業所周辺の定期清掃 1回以上/月

※1 電力の二酸化炭素排出係数 関西電力(株)

2021年度公表値 CO<sub>2</sub>調整後排出係数 0.311kg-CO<sub>2</sub>/kWh

### 3. 主な環境負荷の実績

2024年度の環境負荷削減の目標及び環境活動を策定する為、過去2年間の「環境への負荷の自己チェック表」及び「環境への取り組みの自己チェック表」の調査結果のまとめは下表の通りです。

(電力購入先：関西電力 2021年度公表値 CO<sub>2</sub>調整後排出係数 0.311kg-CO<sub>2</sub>/kWh)

環境への負荷の自己チェック表

(集計期間 2022年度～2024年度) 2024年度の実績を比較の為表記

		単位	2019年度	2022年度	2023年度	2024年度	
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	31,848	31,194	30,973	36,551	
受託した産業廃棄物の処理量	収集運搬量	t	1,139	2,512	2,217	2,123	
自社発生産業廃棄物排出量	再資源化量	t	不明	130.39	114.79	164.76	
自社発生一般廃棄物等総排出量	再使用	t					
	再生利用	t	0.184	0.13	0.15	0.147	
	熱回収	t	0.022	0.024	0.016	0.017	
	単純焼却	t					
	その他	t					
	最終処分量	t					
総排水量	公共水域	m <sup>3</sup>	82.58	83.81	88.68	77.91	
水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>	64.78	76.81	79.48	68.71	
	地下水	m <sup>3</sup>					
	雨水	m <sup>3</sup>	7.8	7.0	9.2	9.2	
総エネルギー投入量	購入電力	kWh	13,584	14,184	13,373	14,703	
	使用量内訳	ガソリン	リットル	2,015	739	624.6	898.6
		軽油	リットル	8,719	9,511	9,626	11,363
		LPG	kg	21.65	35.47	34.22	23.9

4. 2024年度実績（運用期間 2024年3月～2025年2月）

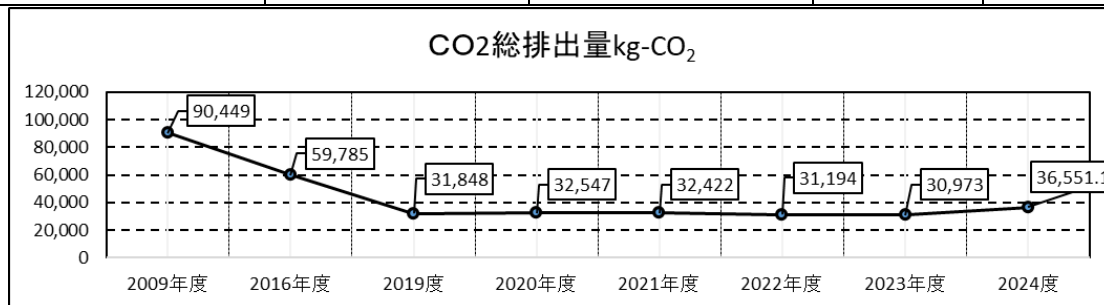
環境経営目標に対する達成状況は下記の通りです。

達成率の計算は右記の式を使用する。 達成率 = (1 - (実績値 - 目標値) / 目標値) × 100  
 温室効果ガス総排出量の推移（2012年5月認証・登録）

注意 各年度とも電力のCO<sub>2</sub>調整後排出係数は0.311kg-CO<sub>2</sub>/kWhで計算しています。

1) 事業活動による二酸化炭素総排出量削減 関連SDGsターゲット 13.3

取組み項目	2024年度目標	2024年度実績値 (3月～2月)	達成率	評価
エネルギー使用量削減による二酸化炭素排出量削減	31,216 kg-CO <sub>2</sub>	36,551.1 kg-CO <sub>2</sub>	82.9 %	未達成



1) - 1 電力使用量の削減 関連SDGsターゲット 7.3

取組み項目	2024年度目標	2024年度実績値 (3月～2月)	達成率	評価
使用量の削減	13,313 kWh	14,703 kWh	89.6 %	未達成
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	4,140 kg-CO <sub>2</sub>	4,572.57 kg-CO <sub>2</sub>		

1) - 2 ガソリン使用量の削減 関連SDGsターゲット 7.3 12.2

取組み項目	2024年度目標	2024年度実績値 (3月～2月)	達成率	評価
使用量の削減	1,974.3 リットル	898.6 リットル	154.5 %	達成
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	4,584 kg-CO <sub>2</sub>	2,086 kg-CO <sub>2</sub>		

1) - 3 関連SDGsターゲット 7.3 12.2

(取組み項目：原単位の低減 軽油使用量/売利上げ高)

取組み項目	2024年度目標	2024年度実績値 (3月～2月)	達成率	評価
原単位の低減 基準年度(2020年) 原単位の△1.5%	0.642 リットル/万円	0.632 リットル/万円	101.6 %	達成
使用量の削減 ※2	8,544.6 リットル	11,363 リットル	67.0 %	未達成
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	22,424 kg-CO <sub>2</sub>	29,821 kg-CO <sub>2</sub>		

※2 軽油使用量は、業務量（収集運搬量）に大きく影響され、軽油量削減をメインの削減目標とはできない。ゆえに売上高当たりの軽油使用量で表される原単位低減を目標としている為参考値とする。

1) - 4 LPG使用量の削減（維持管理に見直し） 関連SDGsターゲット 7.3 12.2

取組み項目	2024年度目標 参考目標値	2024年度実績値 (3月～2月)	達成率	評価
使用量の削減	21.65kg	23.9kg	82.2 %	未達成
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	64.99 kg-CO <sub>2</sub>	71.8 kg-CO <sub>2</sub>		

2) 水道使用量の削減（維持管理に見直し） SDGsゴール及びターゲット 6 12.2

取組み項目	2024年度目標 参考目標値	2024年度実績値 (3月～2月)	達成率	評価
使用量の削減	72.0 m <sup>3</sup>	68.71 m <sup>3</sup>	104.6 %	達成

水道水使用量は2021年度にアルバイト人数の増加の為に目標値を見直した

3) 化学物質の使用量の削減・適正管理

取組み項目	2024年度目標 参考目標値	2024年度実績値 (3月～2月)	達成率	評価
燃料の漏れ、塗料、溶剤 の蓋を閉め忘れ 0件	漏れ閉め忘れ 発生件数 0件	漏れ、閉め忘れ 発生件数 0件	100.0 %	達成

4) 選別とリサイクルの推進 関連SDGsターゲット 12.5

リサイクル率 (全収集運搬量-埋立向量) / 全収集運搬量 × 100

取組み項目	取組み結果	評価
趣旨説明と現状調査	・全員に趣旨説明と現状作業の確認を指示	達成
改善案作成	・金属と樹脂の混合物のリサイクル化	達成
実施及び実施結果確認と 見直し 2024年度目標値 85%以上	・発生量の少ない廃棄物でもリサイクル化取り組み実施 年間リサイクル率99.98% リサイクル量2,123t/全収集運搬量2,123t(埋立0.35t)	達成
取組みの定着	・処理可能な収集物の分別を徹底	達成
取組みの結果確認と改善案 作成	・定期的な現場確認とフォロー実施	達成

5) 収集運搬時の飛散漏洩防止 関連SDGsターゲット 11.6 12.4

取組み項目	取組み結果	評価
漏洩事故の防止	容器の密閉、転倒防止対策確実実施 事故0件	達成
飛散事故の防止	シート、ネットによる養生確実実施 事故0件	達成

6) 自社発生産業廃棄物、一般廃棄物適正管理によるリサイクル率の向上

関連SDGsターゲット 12.5

取組み項目	取組み結果	評価
適正管理による リサイクル率の向上 産廃目標：60%以上参考 一廃目標：80%以上	取組み初年度の取組み 現状の把握と取組結果 産廃リサイクル率 92.82% 一廃リサイクル率 100.00% (可燃ごみは焼却熱を活用し発電に利用)	達成

7) 地域社会活動に貢献する SDGsターゲット 14.1

取組み項目	取組み結果	評価
趣旨説明と現状調査	・趣旨説明の実施	達成
清掃予定場所の設定と実施	・清掃日を決めずに不法投棄ごみ発見時に回収	達成
問題点の把握と改善案作成	事業所前の道路は放置ごみを見つける都度新たなごみを呼ばないように回収することになっている。	達成

5. 主要な環境経営計画取組み結果の考察

事業活動による環境負荷を低減する為、事務局で進捗状況をフォローし、定期的な環境教育時にグラフ化した資料により変化点の説明等わかりやすく説明と掲示をすると共に、環境教育、緊急事態対応訓練の中で収集運搬時の注意事項の説明をすることで環境汚染防止への意識向上を図った。それらの結果、収集運搬中の飛散、漏洩事象がE A 2 1 認証以降は一度も発生していないのは一番の効果だと判断している。

2023年5月より新型コロナも5類に移行しアフターコロナに変わってきており、影響も少なくなり業務量も戻ってきた。

年間のCO<sub>2</sub>総排出量は達成率82.9%と大幅に未達成。一番の増加要因は軽油使用量が、収集運搬量の減少化と収集運搬方法の変化により大幅の増加、次に電力量使用量は夏季の猛暑の影響で大きく増加している。

各取組みの詳細は下記の通りとなっている。

1) 二酸化炭素排出量の削減

年間総CO<sub>2</sub>排出量は達成率82.9%と大幅に未達成となる。主な要因は軽油使用量が増加した。これはスクラップの一車当たりの運搬量の減少化とそれによる運行回数増加で軽油使用量が大幅に増加した為、年間総CO<sub>2</sub>排出量は目標値を大幅に増加した。

(1) 電力使用量の削減

年々猛暑が続くとともに毎月の最高気温は毎年上昇してきている。そのような中数年前より作業者の安全衛生面を考慮して常時運転を行っている。その結果、電力消費量は増加し目標に対して達成率は89.6%と未達成となった。

電力使用量増加については取組みの徹底を次年度に進める。

○2022年度に取り組んだ削減取組み内容

・冷暖房時のエコ運転設定継続（室温：冷房時26度以上 暖房時22度以下）

(2) ガソリン、軽油使用量の削減

○ガソリン使用量は達成率154.5%と大幅達成

○軽油使用量（参考目標）は達成率67.0%と大幅未達成。これは10月度より関連事業所のスクラップ収集運搬業務を自社事業に取り込んだのと、一車当たりの積載量の減少とそれに伴う運搬回数の増加で軽油使用量が大幅に増加した。これら変化点もあったが原単位は0.632と目標に対して達成率が101.6%とクリア出来た。

取組み内容

○エコドライブの推進

エコドライブについて、ミーティングの度に教育を行っている。今後も継続してエコドライブへの呼び掛けを継続して行っている。

○適正運行管理による運送効率のUPで軽油の原単位の良くする

燃料の削減を図る為、収集運搬と客先積み込み場の管理業務を出来るだけ同じタイミングで行い、空車での走行距離を削減する取組みを継続し業務の改

善を継続して進めて来た。又、遠距離取引先の見直しを実施した。

原単位が悪くなっている月は事業所内で使用するリフト、ショベルローダー用の軽油をドラム缶で一括購入している為悪くなっている。

### (3) LPG使用量の削減（維持管理活動）

LPG使用量は作業場内の仕事量の安定化もあり、目標に対して僅かに微増し達成率も89.6%と未達となった。ただし、元々使用量が少ない為わずかな作業人員の配置の変更で大きく使用量が変動するので適正使用を心がけるようにすることとしている。

## 2) 水道水使用量の削減（維持管理活動）

2024年度は漏水事象、及び他に水道使用量増になるトラブルもなく推移した為、達成率104.6%と目標を達成できた。ただし、年間に目標値をわずかに超過することは有るがこれも使用量が少ない中で目標値を限界値まで下げている為と判断している。

### ○今後の対応（継続実施）

- ・1回/月の検針で漏水の確認をしているがそれ以外にも水道メーターの確認で漏水の有無を確認するようにして、漏水発生期間から対応迄の期間を短くし漏水量を減らすようにする。

### ○その他の取組み内容（継続実施）

- ・設備の点検、早めの整備を図り、水栓の閉め忘れが無いように周知
- ・洗車の方法、回数、タイミング等の工夫で水使用量の節減
- ・代替水活用による水道水の節減（緑地への灌水は雨水の再利用等）

## 3) 化学物質の適正管理

日常より燃料漏れの防止、塗料未使用時の塗料缶の蓋の徹底を指導している為化学物質の漏洩、大気への放出防止は確実に実施されている。

又、P R T R法対象の指定化学物質は、少量購入している塗料、及び燃料に含まれている以外に購入実績はありません。

## 4) 廃棄物の削減とリサイクル化の推進

収集運搬量はアフターコロナの時期に入り収集運搬量も安定して来ている。埋め立て向け廃棄物の収集運搬量の引き受け量を減らしてきているのでリサイクル率は高い値（平均99.98%）で推移している。

### ○変化点

- ・埋め立て向けの廃棄物の取扱量を削減する方向で進めてきた。
- ・廃棄物（主に金属スクラップ類）の分別作業の手順書による教育  
新規採用従業員への分別作業の指導の徹底でスクラップ類の分別作業の効率化を図る

### ○継続事例

- ・商品別に写真掲示で選別工程の効率UP（24種類の表示）
- ・SUSと樹脂複合物は溶解する事で、双方のリサイクル化を実施
- ・金属スクラップを分解し複合金属の選別とリサイクル率UPを継続実施

## 5) 自社発生各廃棄物の削減リサイクル率について

### ○一般廃棄物の削減とリサイクルについて

新聞紙、雑誌類は最低限の購入量で有り、封筒類も不要となった時点で再資源化している。焼却処理する可燃ごみは焼却熱による発電でリサイクル化実施

### ・今後の取り組み

プレビュー画面等のパソコン画面上で入力ミス確認、校正を行う  
ペーパーレス化を進めて行く、コピー用紙の裏面使用と不要書類の原料化

○自社発生産業廃棄物の削減とリサイクルについて

自社発生産業廃棄物はスクラップ回収時にパレット（木製、プラスチック製）に載せてある場合が多く、金属以外の材料で組み立てられている場合が非常に多い。又、請負工事はその都度発生する廃棄物の種類が変化する為、自社で発生量をコントロールすることは難しい。

- ・変化点 リサイクル目標値 ⇒ 2022年度12月度より60%に見直し済
- ・今後の取り組み

確実な選別でリサイクル率を向上させる取り組みを進める。

6) 受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮

受託した廃棄物の収集・運搬は飛散、漏洩事故もなく安全、適正に処理が出来た。

7) 緊急事態対応訓練

「車両からの作動油、潤滑油類の漏出発生時の対応訓練」から5年を経過しており運転手も入れ替わりにより訓練を受けていない人もいる。特に作動油の漏れは大きなトラブルに繋がり客先の環境問題につながる為訓練を実施した。

○緊急事態対応訓練実施内容

- ・予防として始業点検を行い、必要に応じて事前に修理を行うことの重要性を説明。
- ・ヒアブ、ユニック等での積み込み作業中に作動油のホース類の破損により作動油が漏出した場合を想定して応急処置方法について訓練実施

8) 地域社会活動に参加する

○事業所周辺の定期清掃

事業所の近辺は不法投棄を発見の都度回収を行い不法投棄の呼び水となるのを防ぐ様になっている。時々、住民が周辺の道路の清掃をしており、これらの活動で不法投棄の減少した

継続事例

- ・ゴミが多い場合は部分的に清掃を実施する。
- ・春、夏場の行楽客からの放置ゴミが多いときは頻度を増やす。
- ・出勤後のパトロールを兼ねて放置ごみの回収を実施する。



清掃活動の様子

6. 次年度以降の取り組み内容

6-1 2025年度環境経営目標（基準年度2019年） 電力のCO<sub>2</sub>排出係数 0.311 kg-CO<sub>2</sub>

○各エネルギー使用量の削減により二酸化炭素排出量を削減する 二酸化炭素総排出量目標 42,534kg-CO <sub>2</sub> /年以下			
エネルギー削減項目	・電力使用量の削減	基準年度の△2%	13,312kWh以下
	・ガソリン使用量の削減	基準年度の△40%	1,208.8ℓ以下
	・軽油原単位の削減 ・軽油使用量の削減 (参考目標)	2024年度の10～2月度の実績を年間に置換えてその値を目標値として維持 ※	目標原単位0.723 (軽油ℓ/売上高万円)以下
	・プロパンガスの削減	無駄な使用を止める	
○節水による水使用量の削減			
	・代替水活用による水道水の節減	節水に努める	
○化学物質の使用量の削減・適正管理			
	・燃料の漏れ防止、塗料、溶剤容器の蓋	漏れ防止、不要時は蓋	
○選別、リサイクルの徹底で廃棄物削減			
	・選別方法見直しによる再資源化量拡大 ・リサイクルアイテムの開発でリサイクル率UP	リサイクル率目標 産廃：98%以上 自社産廃：60%以上 自社一廃：80%以上	
○受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮			
	・収集運搬時の飛散、漏洩の防止	飛散、漏洩事故ゼロ	
○事業所周围の定期的清掃作業			
	・従業員による事業所周围の定期清掃	1回以上/月	

※軽油原単位、軽油使用量の基準年度は2024年度後半実績とし決め方は下記の通り

軽油使用量（参考目標）：2025年度以降も2024年度の10～2月度実績値を年間に置き換えて維持

軽油原単位：2025年度10～2月度の軽油使用量、売上高から年間の原単位を推定し維持をする

6-2 2026年度～2028年度までの中長期の環境経営目標

○各エネルギー使用量削減目標 各年度の削減率 基準年度（2019年度）に対して 電力：2025年度 △2% 以降年度は基準年度の△2%を維持とする ガソリン：2025年度以降△40%維持 LPGは維持管理活動（無駄な使用を止める）とする 軽油原単位、軽油使用量の基準年度は2024年度後半実績の維持			
○水道使用量削減	維持管理活動（節水に努める）とする		
○化学物質の使用量の削減・適正管理	燃料の漏れ防止	漏洩事故件数0件	
	塗料、溶剤容器の蓋	確実に閉める	
○リサイクルの徹底で廃棄物削減	取り組み定着 適正管理で再資源化量の拡大		
	リサイクル率	全産廃棄物：98%以上	自社産廃：60%以上参考 一廃：80%以上
○収集運搬時の飛散、漏洩事故防止	飛散、漏洩事故件数	0件	
○事業所周围の定期清	従業員による清掃	1回以上/月	

## 7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関連する主な法規制は下記の通りであり、それらの遵守状況の確認を今回（2025年3月10日）実施したが全て遵守されており、関係機関からの指導、勧告、訴訟、及び外部からの苦情等もありませんでした。

主な適用法令名	遵守すべき要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 県条例・市町村条例	・産業廃棄物の収集運搬業許可の有効期限遵守 ・マニフェストの管理、保管	遵守
自動車NOx・PM法	自動車NOx・PM法の排出基準を満たした車両を運行	遵守
古物営業法	標識掲示・帳簿管理・その他法令の遵守	遵守
兵庫県金属くず営業条例	標識掲示・帳簿管理・その他条例の遵守	遵守

## 8. 代表者による全体評価と見直し・指示

今回、エコアクション21認証後13年目の取り組みであり、年間を通じて産業廃棄物処理業者向け2017年版ガイドラインに合わせて活動を行った。

2024年度は新型コロナウイルスの影響も殆どなく収集運搬量、及び他の業務量も2021年度から持ち直してきた。収集運搬業務において運搬回数、運搬量の見直しも有り、次年度のエネルギー使用量の見直しが必要となっている。

### ○温室効果ガス排出量抑制関係について

年間総CO<sub>2</sub>排出量の削減取り組みでは達成率82.9%と大幅に未達成となる。

- ・電力使用量削減取り組みは目標値と比較して達成率89.6%で未達成。
- ・軽油使用量が一車当たりの収集運搬量減少により収集運搬回数の増加により大幅に増加した為総CO<sub>2</sub>排出量増加の大きな要因となった。

軽油使用量は収集運搬の方法が変化している為、2024年10～2月度の実績（軽油使用量、売上高）を基に年間を推定し原単位、軽油使用量を決めて目標値とすること。

### ○廃棄物の削減とリサイクル取り組みについて

- ・産業廃棄物収集運搬量は昨年度に続き3年間安定して来ている。年間リサイクル率は約99.98%と順調で推移している。収集運搬している産業廃棄物内容が変化しておりリサイクル率の見直しが必要となってきた為次年度からリサイクル率の見直しを行い大幅なUPで98%とする。自社発生産業廃棄物は作業内容で発生する廃棄物の種類が大きく変わるのでリサイクル率は60%のままとする。

今後も産業廃棄物についてはリサイクルのアイテムを増やして提案し発生した時点での分別による収集運搬が重要となっている。

### ○環境法令関係改訂情報、その他の情報の入手について

重要な環境関連情報は業界の研修会で改訂に基づく情報が入っている。

その他は新聞、インターネット、業界からの情報、及び環境法令情報サイトからの改訂情報を活用して「環境関連法規等の取りまとめ」を行っている。

### ○「環境経営システム」の各要素について

環境経営システムの各要素は問題なく活用できている為見直しの必要はない。

電子データによる審査書類提出へと仕組みが変わったことで書類作成、提出の工数が大幅に減ったことは弊社にとっても紙の文書記録類の大幅削減になっていると評価している。

### ○環境経営方針・目標及び実施体制について

環境経営方針及び実施体制については変更の必要はないが、環境経営目標・計画については、収集運搬業務の効率化を客先の要望も含めて考慮して目標設定の必要がある。それ以外にも運用状況を見て、変更が必要となれば次年度に反映すること。

2025年3月28日

代表取締役 浦上富廣